

ハクサイダニ

○ 被害と発生生態

体の大きさは約 0.7mm で、胴体は黒色、脚は赤橙色である。行動は活発で、葉や茎に口針を刺して吸汁する。被害葉は灰色から銀白色に変色し、被害が激しい場合は、生育が衰え枯死する。ダイコンでは、被害痕が褐色に変色することもある。ハクサイなど結球する野菜では、結球部に侵入して加害する。

本種はアブラナ科野菜や、ニンジン、ネギ、イチゴ、ムギ等に寄生する。山口県内では、ハウレンソウ、パセリ、シュンギク、コマツナ、ダイコン（葉、地際部）で被害が発生した例がある。

休眠卵で夏を過ごし、10～11月頃にふ化して、幼虫、第1～3若虫を経て、成虫になる。年間の発生回数は3回である。単為生殖を行い、雄成虫は確認されていない。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・発生源をなくすため、ほ場の残さはビニール袋に詰めてほ場外に持ち出し処分し、付近の雑草の除去を行う。
- ・被害の多かったほ場では、夏期にビニール被覆による蒸し込み（太陽熱消毒）を実施する。

(イ) 薬剤防除

- ・本種に対する薬剤の登録はない。



ハウレンソウの被害



コマツナの被害



ダイコンの被害



シュンギクの茎に寄生する
ハクサイダニ



ハクサイダニ（雌成虫）



ハクサイダニの卵